

米国骨髄バンクへの 骨髄提供第1例目の実施について

本日（2000年5月23日）、日本骨髄バンク（財団法人骨髄移植推進財団）から米国骨髄バンク（National Marrow Donor Program：NMDP）への、初めての骨髄提供が行われますので、お知らせいたします。

患者さんは、米国在住の20歳代の女性で、急性リンパ性白血病のため、昨年11月、日本骨髄バンク（当財団）へ患者登録されました。

骨髄提供者（ドナー）さんは、甲信越地区在住の20歳代の男性で、骨髄採取は都内の当財団の認定病院において行われます。採取された骨髄液は、採取病院から、当財団職員が携帯して移植病院まで運搬し、患者さんへ移植されます。（成田発の航空機を利用します。）

日本骨髄バンク（当財団）は、1991年12月18日に発足し、事業を開始してから8年が経過しておりますが、2000年4月末までに、当財団のコーディネート（連絡調整）によって2597例の非血縁者間骨髄移植が実施されています。そのうち、国際協力により海外からの提供が69例、海外への提供が25例、合計94例が含まれています。（国際協力の経緯は、別紙のとおりです。）

米国骨髄バンク（NMDP）と日本骨髄バンク（当財団：JMDP）の提携は、1997年4月に締結され、適合ドナー検索、コーディネート、骨髄提供が相互にできるようになっています。この提携により、これまで、米国から日本には62例の骨髄提供が行われました。日本から米国へは、提携前に、米国の移植病院からの依頼に応じ2例の提供例がありましたが、提携後の提供例は今回がはじめてとなります。

今後、これを機会として、相互の骨髄提供が一層すすむことが期待されます。